



棚田保全活動の応援

大学生サークルと農村マッチング  
事業

一般財団法人日本グラウンドワーク協会  
理事長 中里良一

# 一般財団法人日本グラウンドワーク協会

グラウンドワークとは協働により地域をよりよくすること

[取り組んでいること] 地域おこしの応援 詳しくはHPをご覧ください。

①大学生と連携して農業、農村の応援

②営農型太陽光発電(ソーラーシェアリング)のアドバイス

③農福連携のアドバイス

④男女共同参画のアドバイス

⑤酒類(地域特産物利用:小ロット)製造のプロデュース

⑥講師等の紹介(シンポジウム、研修等) 等

理事長 中里良一 博士(専門:農業農村政策、農地・水・棚田保全等)

理事 菅原文子 菅原文太事務所代表取締役社長

理事 山下昭子 元NHKキャスター(専門:情報発信、メディア論)

監事 野中晋輔 (株)スタジオジブリ執行役員

## 大学生サークルと農村マッチング事業

農林水産大臣表彰事業

[目的] 大学生サークルと地域団体、行政等とのマッチングを行い、

①大学生が農作業やむらづくりを応援する。

②若者との関係人口の増加を推進する。



※多くの地域が過疎化、高齢化の中、地域間で若者の争奪戦→若者の確保難しい

③将来を担う若者に農業、農村の現状を知って、体験してもらい、その役割、重要性を理解してもらうとともに、将来の農業、農村の担い手、応援者になること期待する。

## 大学生サークルに応援してもらう内容

- ①農作業
- ②農村環境保全活動
  - 1)耕作放棄地の解消
  - 2)水路清掃、道普請 等
- ③お祭り等イベントの企画、運営
- ④地域おこしや地域特産物づくりのアイデア出し等
- ⑤SNS、口コミ等による情報発信 等

※個別農家や集落営農等所得確保のための作業は応援しない  
(有償であれば対応可)

# 大学生サークルによる地域活動の応援事例



農作業



耕作放棄地の解消



イベントの企画・運営



地域特産物の商品化・販売

## 事業の進め方

STEP1

「大学生サークル」と「地域団体」、「行政」等とのお見合い



協会が仲人

STEP2

「大学生サークル」と「地域団体等」が直接連絡調整、応援活動開始



協会がフォロー

(ケース1)

大学生サークル ⇄ 地域団体

お見合い



新潟大学⇒NPO法人地域おこし(十日町市)

(ケース2)

大学生サークル ⇄ 県or市町村 ⇒ 地域団体1

お見合い

派遣

⇒ 地域団体2



神戸大学⇒養父市役所(兵庫県)

## 協会が連携している「農業農村を応援する大学生サークル」

- ①琉球大学 ②山口大学 ③神戸大学 ④名城大学 ⑤石川県立大学 ⑥新潟大学
- ⑦信州大学 ⑧静岡大学 ⑨明治大学 ⑩東京大学 ⑪千葉大学 ⑫北里大学
- ⑬島根大学

マッチング依頼者の県内に協会連携の大学生サークルがない場合、新しく設立する



名城大学地域共創造隊『WITH』(令和5年4月設立)



サークル設立を学生に呼びかけ



神戸大学地域おこし団体水芭蕉(令和6年4月設立)

①神戸大学 地域おこしサークル水芭蕉⇒別宮棚田（兵庫県養父市）



②新潟大学 新大むらづくり応援隊⇒池谷入山棚田（新潟県十日町市）



### ③山口大学 棚田・地域おこし学生応援隊⇒油谷棚田(山口県長門市)



### ④島根大学 地域創生・結しまね⇒山王寺本郷棚田(島根県雲南市)



## ⑤石川県大学 白米千枚田学生応援隊→白米千枚田(石川県輪島市)



## 農村への成果

(ヒアリング調査による)

- ①高齢農家の農作業の負担軽減が図られる。
- ②農産物のブランド化や商品化など農業振興やむらづくりのアイデアや作業協力を得ることができる。
- ③イベントやお祭りの運営協力(神輿のかつぎ手の確保等)や参加により、地域がにぎわい、活性化する。
- ④「久々に若者が集落を歩くの見た」、「久々に若者と話した」と非常に喜ばれている。
- ⑤大学生が尊敬の念を持って、農家に接するとともに、環境など地域の素晴らしさを称賛することにより、農家は農業や住んでいる農村地域を誇りに思う。

# 事業の経費

1. マッチングセット業務費

2. 活動時(マッチング後)

- ①大学生の交通費(送迎の場合は、なし)
- ②1日傷害保険(ボランティア保険)

※農作業時のケガ等は、大学生の自己責任



島根大学↔山王寺本郷棚田実行委員会及び  
島根県土地改良事業団体連合会とのマッチング

## 「ちよこっと応援事業」

1. 連絡調整費

2. 大学生への経費

- ①大学生の交通費(送迎の場合は、なし)
- ②1日傷害保険(ボランティア保険)

※農作業時のケガ等は、大学生の自己責任



棚田保全団体による「棚田米を腹いっぱい食べようぜ！」  
in 東京

## 「大学生サークルと農村マッチング事業」等手引き書(含む事例)



農林水産省 作成中

9大学生サークル代表と意見交換



若者との関係人口の増加



地域の担い手の確保

農林水産省「学生専門部会」設置

# 棚田保全と地域おこしに若者の力を活用してみませんか

せんがまち棚田(静岡県菊川市、茶草場農法:世界農業遺産)



白米千枚田(石川県輪島市:世界農業遺産)

[お問い合わせ]

一般財団法人日本グラウンドワーク協会  
03-6459-0324